

オクシモロンにおける反義のプロトタイプ性について

伊藤 薫

京都大学 人間・環境学研究科

k.ito@sojin.mbox.media.kyoto-u.ac.jp

1. はじめに

オクシモロンは「小さな巨人」「近くて遠い国」のように、対義的な表現同士を結び付ける修辭的表現である。佐藤(1983)によれば、オクシモロンの定義は以下のとおりである。

常識的には両立しないふたつの対義語または対義表現を無理に結合することばづかい
(*ibid.*)

この「対義的な表現同士」の内実については、これまであまり詳しくは検討されてこなかった。本論では、このことについて Cruse(1986)や Croft and Cruse(2004)の反義性 (*oppositeness*)をもとに、オクシモロンで結び付けられる反義語のペアはどのようなものであるかについて考察する。

2. 反義語の特徴

Cruse(1986)によれば反義とは次のような性質を持つものである。まず、プロトタイプ的な反義のペアは明確に区別できるが、反義のクラス全体については明確に定義できない。また、反義のペアは典型的には意味のただ一つの側面だけが異なっていて、他の全ての特徴に関しては同じである。

また、よい反義のペアとなる条件について、Croft and Cruse(2004: 164-165)はよい反義の例である条件として、次の4つを挙げている。

(i) Intrinsic binarity

バスに関する *single-decker/double-decker* の区別のように、あるものの種類がたまたま二つであった場合、二つの語の反義性は低い。

(ii) The 'purity' of the opposition

male/female, man/woman, aunt/uncle については後のペアほど反義性が低い。対立の基礎になっているのは MALE と FEMALE という特徴だが、他の特徴が増えるに従い反義性が低くなっている。

(iii) Symmetry

large/small のペアの方が *large/tiny* のペアよりも反義性が高い。「大きさ」のスケールの中で、*large* と *small* は基準に対して対称的に配置されるが、*tiny* は *small* よりも基準から離れたところを指すので、*large* と対称的に配置されていない。

(iv) Matched non-propositional features

clean の反義語は *dirty* が標準的で、*mucky* は標準的でない。*mucky* の使用域(register)は特定のものに限られている。

本発表では、これらの特徴を全て満たすものをプロトタイプ的な反義と位置づけ、それぞれの特徴が欠けたもの同士が結び付けられた場合でも、オクシモロンと考えられるかどうかについて検討する。

3. オクシモロンと反義のプロトタイプ性

本節では、前節で紹介したよい反義となるための特徴とオクシモロンとの関わりについて述べる。

(i) Intrinsic binarity

次の例は、Intrinsic binarity が欠けた反義のペアである「A 級」と「B 級」がともに「グルメ」と結びつけられている表現である。

- (1) カキオコも、たまごかけごはんも、ホルモンうどんも、いわばB級グルメですが、間違いなく A級のB級グルメ です。美味いもん！！

(http://satoshin.jp/kokoro/kokoro_bunrui/ko_data/a10_081229.html、下線筆者)

(ii) The 'purity' of the opposition

次の例では、反義の「純粋性」の異なるもの同士が結びつけられている。

- (2) 生ける屍

「生」と同じ純粋性の反義語は「死」であり、「屍」の反義語は容易には思いつかないが、可能なものの一つとして「生体」がある。「男／おば」のペアが反義語と考えにくいことと同様、「生／屍」も反義語とは考えにくい。このようなもの同士を結びつけてもオクシモロンは成立する。

(iii) Symmetry

次の例は、対称性が欠けているペアが結びつけられた表現である。

(3) 小さな巨人

(3)は、身体そのものは小さいが有能な人物を表す表現である。普通考える反義のペアは「大／小」「巨／矮」だが、ここでは対称性の欠けた「巨／小」というペアが結びつけられている。修辭的な効果としては、良い反義のペアである「大／小」を結びつけた次の表現との違いは感じられない。

(4) 小さな大物

なお、前節に挙げた(iv)Matched non-propositional features が欠けた反義語同士を結びつけたものは、今回探した例の中からは見つからなかった。

以上のことから、反義のプロトタイプ性は、オクシモロンであるかどうかに影響を与えないことが分かる。

4. オクシモロンにおいて結び付けられる要素は何か

反義語について、Cruse は次のように言う。

Opposition is a special case of incompatibility. *Long* and *short*, for instance, are incompatibles, since nothing can be at once *long* and *short* (relative to the same reference point); but obviously their relationship is different from that between *dog* and *cat*.

(Cruse 1986: 257)

また、第 2 節で見たように、反義のペアは典型的には意味のただ一つの側面だけが異なっていて、他の全ての特徴に関しては同じであるものであった。前節で見たように、オク

シモロンにおいて結び付けられている二つの要素は、反義のプロトタイプ性が低いものでもよかったが、両立できないもの同士でも上のような犬／猫を結び付けて「犬の猫」のような表現を作っても、オクシモロンとは感じられない。したがって、オクシモロンにおいて結び付けられる要素は、少なくとも次のようなものである必要があると考えられる。

- ・前節で考察したような、かなり典型性の低いものまでを含む反義語(e.g. A級／B級、巨／小)
- ・一方の概念が複雑であり、もう一方が複雑な概念に内在する特徴と相反する特徴を表している場合(e.g. 生ける屍)
- ・二つの要素で異なっている点が少ないこと(e.g. 犬／猫のようなペアは認められない)

参考文献

Croft, William and D. Alan Cruse. 2004. *Cognitive Linguistics*. Cambridge: Cambridge University Press.

Cruse, D. Alan. 1986. *Lexical Semantics*. Cambridge, U. K.: Cambridge University Press.

佐藤信夫. 1981. 『レトリック認識』東京: 講談社.

佐藤信夫. 1983. 「逆説という修辞現象」, 中村明(編)『講座日本語の表現 5 日本語のレトリック』36-47. 東京: 筑摩書房

瀬戸賢一. 1997. 『認識のレトリック』東京: 海鳴社.